

ポール・ハリスとロータリー

RID2710PDG 諏訪 昭登 (広島西 RC)

1868.4.19 ロータリーの創設者ポール・パーシー・ハリスは、ウィスコンシン州ラシ
ーンでジョージ・ハリスとアイルランド系の妻コーネリアの次男として誕生した。

1871.7月 父ジョージは生来の空想家、母は金銭浪費家だったため常に貧困で破産
を繰り返した。この年、破産のため兄セシル(5歳)とポール(3歳)はニューイングランド地方
バーモント州のウォーリングフォードに住む祖父ハワード(65歳)、祖母パメラ(54歳)のも
とへ引き取られた。幼妹メイは親元へ残り、セシルは間もなく伯母の元へと移った。父方祖
父ハワードは、1620年、宗教と良心の自由を求めて英国から渡航した清教徒、ピルグリム・
ファーザーズに祖先を持つスコットランド系の人だと言われている。ポールは地元で有名
になるほど腕白で、仲間の少年達と山野を駆けめぐり日々を送った。祖父母の愛を一身に受
けて、勤勉、質素、かつ厳しい生活態度の中にも優しさをもって育てられた。祖父母の生活
態度は、一切の虚飾と相容れない、平凡であっても毎日の生活に全力を捧げるという、きわ
めて単純な原理と、他人に対する思いやりと献身に包まれていた。そのことが、人生をいか
に楽しくするかという感銘をポールの心に植え付け、後にロータリーの基本原理として発
想した源流となったと彼が語っている。

1871.9月 小学校入学。その後ポールは二度ほど両親に引き取られたものの、三度目
の破産で祖父母の元へ送られ、これが両親と再び共に生活することのない生涯の別離とな
った。地元のラトランド高校を経てブラックリバー・アカデミーに入学したポールは、初め
て家を離れた自由を満喫し、悪戯遊びが過ぎて一年で退学処分となった。周囲の忠告と好意
によってバーモント・アカデミー（陸軍士官学校）に入学し、一転して善良な学生として抜
群の成績で卒業という成果を見せた。

1885.秋 バーモント大学入学。

1887.春 バーモント大学では有能なリーダーとしての素質を発揮していたポール
は、二年生の時、暴力事件に関与した首謀者と見られ、他の3人と共に退学処分となった
（後に冤罪と判明）。このことは、自分の自由奔放な性格が世間に恥ずかしい姿を露呈し、
祖父母に大きな悲しみを与えたことで、彼の人生観に大きく影響した。この後、祖父の期待
するように弁護士となって、この人生の債務を弁済することを決意した。祖父は祖母の進言
もあって家庭教師を雇ってポールを支援した。

1887.秋 プリンストン大学入学。

1888.3月 祖父ハワード（86歳）死去による経済上の理由で退学した。祖父の遺産
分割は予想に反してポールには僅少で、我が子ジョージへの過保護が失敗の因となったこ
とを考えてのことだったのかと思われる。ここでポールはそれを理解し、独立独歩、自立立
身を決意する機会とした。いくつかの職場で学費貯蓄生活をして、アイオワ州デモイン市

セントジョン・スチブンスン・ウィズナン法律事務所での司法研修を受けたりもした。

1889.9月 アイオワ州立大学法学部入学。

1890 祖母パメラ死去（78歳）。悲しみの中勉学に励む。

1891.6月 同大学を卒業し、弁護士免許取得。卒業式の際、ある先輩が「法学部卒業生は、5年位の自由自在の生活体験の後に思い定めた都市で開業する方が良い」と語った。

1891.夏 大いに感銘を受けたポールは早速実行に移し、のちにこれを「5年間の愚行」「Five years folly」とも「放浪時代」「Vagabondage」と呼んでいる。彼の決意は壮大な冒険、勇気、忍耐、そして探究心に満ちており、どんな仕事でも引き受け、親友ハリー・ブリアムと共に山野を300kmも歩き通したり、どん底の時は野宿もして、飢餓状態での窮乏生活の日々を味わった。米国内で30近い職業（カウボーイ、舞台俳優、果樹園労働者など）を体験し、その間、人生の恩人、生涯の友となったジョージ・クラーク（大理石会社経営。後にジャクソンビルRC創立会長）との巡り合いもあった。

1893.3月 クリーブランド大統領就任式見学のためワシントンDCへ行き、各処を見物した。その後、クラークの協力もあり、英国見聞のため二度の渡航。特に最初のボルチモア号の家畜係では筆舌に尽くしがたい辛酸をなめる経験を味わった。ここで彼は極限状態の中で、人間の相互愛がいかに必要なことを痛感し、ロータリーの人生観を学び取ったといえる。とは言え、放浪の旅はまだまだ続く。

1893.9月 シカゴのコロンビア博覧会を見学し、のちにシカゴ定住決意の動機となった。この年10月にはルイジアナ州ニューオーリンズのオレンジ園で働き、ハリケーンにより九死に一生の危機を経験した。

1894年 ジョージ・クラークの好意で欧米各地への大理石販売出張の機会を得て、仕上げともいえる社会見聞・体験をすることができた。

1896.2月 ニューヨーク勉強のため、クラークが用意した臨時支店長の役をやがて前途への強い気持ちで固辞し、「5年間の愚行」に3ヵ月余を残して終止符を打った。

1896.2.27 28歳のポールは弁護士開業の地と思い定めたシカゴへ勇躍降り立った。この5年間はポールの視野を限りなく拡大し、人間の相互愛の感動を目の辺りにする幾多の極限の機会を経て、のちにロータリー創立となる十分な動機となったことであろう。

1898年 ハリス&ドッズ法律事務所を開設して職務の基盤作りを進める中で、住居を30回位も転々としながらボヘミアンの生活を続ける。一方で、各宗派教会礼拝、遊興場所、各種集会参加など、持ち前の放浪癖を発揮しつつ自分の世界を広げていった。

1899.9月 多くの友人ができてその交友は郷里ウォーリングフォードのそれと比べるべくもない寂しいもので、懐かしさと郷愁を胸に郷里を訪れたりしている。

1900.夏 シカゴ郊外ロジャースパークに住む同業の友人に夕食招待され、散歩中いろいろな商店や事務所を訪問し、楽しい会話が弾んだ。この光景はポールに深い感銘を与え、一つの漠然としたアイデアを思いつかせた。即ち、職業上の交友が、家族的、友愛的交友と合わせて可能である親睦グループとしてのクラブ作りであった。職業人が友愛の

精神で助け合うという目的を持った画期的なものだった。

1905.2.23 自動車は馬より遅く、飛行機は数軍艦の滞空しかできず、最初の映画館がピッツバーグに現れ、アイスクリームやポップコーン、そしてコンクリート橋が初めて世に出た頃。日本では明治 38 年、日露戦争終結の年だった。この日、ポールは石炭商のシルベスター・シールとガリ夫人経営のレストランでスパゲッティを食べながら、5 年近く暖めていた新しいクラブ構想を練り、二人の友人の待つ事務所へ向かった。そこはシカゴ市ノースディアボーン街 127 番地ユニティービル 711 号室、鉦山技師ガスターバス・ローアの事務所であった。ポールは、ローアと洋服商ハイラム・ショーレーに、新しいクラブの考え、即ち一業種一会員から成る物質的相互扶助を前提とした社交クラブとしての親交を目的とすることなどを説明し、一同合意してここにロータリーの暁が訪れたのであった。

この夜のシカゴは南の風、日没は 5 時 33 分、気温 2.2 度、凍てつく様な寒さの中で彼ら四人の胸は温かい友情と明るい明日への夢で満ちあふれていた。これがロータリーの創立である。ポールはこれを“湖畔の一都市を舞台として始まった一場のドラマ”と言い、“ディアボーン街の奇跡”とも語っており、「ロータリーの四人の使徒」と呼ばれる彼たちが歴史的会合を行ったのである。さらに発足以来、ポールが目論見通り、シカゴロータリーは会員にとって砂漠のオアシス、故郷の谷に帰るような場となっていた。特筆すべきは、創生期において、今日までの大原則や一般慣習にまで高められた事柄のほとんどが決められたことである。曰く、①一業種一会員制 ②例会出席義務 ③会務に関する互譲の精神 ④政治および宗教上の論争および団体行動禁止 ⑤例会場固定と食事(第 7 回目から) ⑥卓話の習慣(第 3 回目から) ⑦ロータリーソング ⑧理事会先議権 などである。そのいずれにもポールが控えめに言動しながらも、強固なリーダーシップを発揮した結果とも言えよう。

1906 年 フレデリック・ツイードがドナルド・カーターを入会勧誘した際、クラブの閉鎖性、独善性を直言され、ポールは直ちにシカゴ RC 綱領第三条に「シカゴ市の利益を推進し、市に対する誇りと忠誠の精神を普及すること」を加えた。これはクラブが初めて社会的責任目的を自覚したものであり、後の発展の発端となったのである。他方で同じ年の秋、数年前のロータリー創立についての計画など親しく相談し合ってきた恋人、グレイス・アイリーン・マンとの結婚話が彼女の家族の反対で悲しい結末を迎えている。

1907 年 綱領追加の結果として、ロータリーが提唱し、市民運動が高まり、シカゴ市の土地と費用提供による公衆トイレが実現した(1910)。ロータリー最初の社会奉仕活動と言われている。

この年ポールは三代目会長となり、次の目標を掲げた。①シカゴ RC の充実 ②他の地域に RC を設立 ③Community service の推進。

1908 年 フレデリック・シェルドンとチェスリー・ペリーが入会。後にポールはこのことを「天の祐(たす)け」と語っている。

シェルドンは、職業人の集まりであるロータリーは、経営の科学は

サービスの科学だという考え方を根底に置くべしと論じ、“Service”の理念を持ち込んだ。大いに共感したポールは彼を情報・拡大委員長に任じ、サービス論と拡大を急進的に毎例会で強調した。それは当時 150 名位の会員の不協和音を喚起し、結果としてポールは重任していた四代目会長を任期半ばにして辞任し（1908.10 月）、シェルドンも解任された。

1910.7.2 ポールは諸事多端のなか、シカゴプレーリークラブ（自然愛好クラブ）の創立に関与し、ある日のピクニックで服のほころびを繕ってもらった縁で、ジーン・トムソンと親しくなった。彼女はスコットランドから移住してきたばかりの美人で 12 歳年下だったが、この日、3 ヶ月の交際の後 42 歳のポールと結婚したのである。

1910.8.15 ペリーを同志として三人はシカゴ RC での大目標推進を断念し、サンフランシスコ RC などが順次誕生したのを機会に、全米ロータリークラブ連合会（16RC、1500 名）の結成に成功した（RI はこれを RI 創立と呼称している）。ポールは初代会長、ペリーは事務総長、そしてシェルドンは business method 委員長となった。シェルドンはこの第一回シカゴ大会の祝宴で持論を述べ、ビジネスの科学は人間サービスの科学だとして、“He profits most who serves his fellows best” を発表してまずまずの拍手を得た。

1911.1.26 ペリーの尽力で機関誌「The National Rotarian」が発行された（現在の「The Rotarian」）。ポールはシカゴ RC で急進的に目標推進したことで会員の友愛の気持ちに混乱をもたらしたことへの反省も込めて“Rational Rotarianism”という論文を掲載した。彼はロータリーで最も重要な言葉を唯一あげるなら“Toleration”「寛容」だと叫び、今もロータリアンに熱く信奉される言葉となっている。寛容の精神は祖父の一生を支えた魂であり、ポールの信念もそれに根ざしている。ポールは過ちを直ちに修正し、これはロータリーの思想上の原点の確立と言われている。

1911.8.21 第二回ポートランド大会が開催され、三日目（8.23）第 4 セッションでシェルドンはビジネスの科学はサービスの科学だとして標語を“He profits most who serves best”と改め、ペリー代読で発表した。会場の大喝采を受け、「ロータリー宣言」の結語として採決された。また、司会進行役のポール会長は、大会ボートトリップでミネアポリス RC 会長のフランク・コリンズが非公式に語った little talk があるが、それは後日機関誌で紹介すると語った。論文は 1911 年 11 月号に載り、クラブ運営方針として“Service, Not Self”が説明されたが、多くの人々がフレーズだけを見て宗教倫理に立脚するものと誤解することとなった。シェルドンの標語と同じ意味を持つその真意の解釈違いは、両者の対立論議を惹起した。（オーレン・アーノルドの“Golden Strand”の間違い）

1912.8.6 カナダのウィニペグ RC 設立に始まるロータリー国際化は、全米連合会から国際 RC 連合会へと発展し、グレン・ミード会長となり、ポール・ハリスは終身名誉会長となった。ペリーは引き続き事務総長となり、連続 32 年間職を全うして「ロータリー建設者」「ザ・ロータリアン創刊者」の名で称えられる功績を残した。

ポールはこの後、1926 年頃までは各年次大会などへの激励のスピーチや論文を送ることはあっても、ロータリー活動の表舞台に立たず謙譲の姿勢を続けることとなった

(ひとまずの引退)。

1912.秋 シカゴ郊外、ロングウッドドライブ 10856 番地に住居を購入して、ジーン夫人の故郷エジンバラの美しい通りの名に因んで「カムリーバンク」と名付けて終生住むこととなった。

1915年 ロータリーの職業倫理宣言として「道徳律」が採択された。

1916年 ハリス&ラインハルト法律事務所とファーストナショナル銀行ビルに移設して職務を拡大。

1917年 アーチ・クランプ会長がロータリー基金を提唱。ポールとシェルドンの見解に不協和音。この年ライオンズクラブが発足。

1919.夏 デンバー居住の母コーネリア死去。

1922年 国際連合会は国際ロータリー (RI) と改称し、ロータリーの理念と原則が世界的統一を見たのである。

1923年 理念の深刻な対立を解消したセントルイス大会決議 34 号 (23-34) が成立し、理念と実践法則が集大成された。ロータリー中興の原点とすべきこと。シェルドンとの不調和顕在化。

1925.春 ポール夫妻は懐かしくウォーリングフォードを訪問して旧交を温めた。

1926.3.17 健康回復に伴って RI 名誉会長としての公式活動を再開し、この日バミューダ RC を訪問した。

1926.12月 父ジョージがデンバーで死去。

1927.4.28 生誕の地ラシーン RC 訪問。

1928～31年 病のため療養。

1930年 シェルドン (ロータリーの哲学者) 退会。ポールとの決別。

1932年 ハーバート・テイラーが「四つのテスト」発表 (後にロータリアンの行動基準となる)。

1932～34年 海外各地をジーンと共に歴訪。

1933年 バーモント大学名誉法学博士号受領。(冤罪の名誉回復)

1934年 “This Rotarian Age” 発刊。

1935.2.9～10 マニラ太平洋地域大会出席の途中、日本を夫妻で訪問し、東京帝国ホテル前庭に友愛の樹 (月桂樹) を植樹。諸会合出席後に関西へ向かい、仕事終了後マニラへと出航した。世界各地に植樹された 28 本のうちのこの 1 本は、戦後枯死の危機から二世樹 8 本のみが生き延びて数カ所で健在である。当 2710 地区でも広島西 RC の手で三世樹が移植、管理され成長している。

1941.5月 ラシーン RC を公式訪問。

1946年 第二次世界大戦の終結を見ながら、病床の中で「My Road to Rotary」を完成。

1947.1.27 「ロータリーは私の少年時代のニューイングランド地方の人々の特権で

あった寛容と善意と奉仕の精神から生まれたものであり、私はその精神のうち自分にあるものをすべて自分なりに伝えようとしてきた」と語り、「子供のない私たち夫婦は国際ロータリーを養子にしたのです」とも述べたポール・ハリス。人類文化史上光り輝く「ロータリーの創設者」として数々の事績・名言を残して、78歳の生涯を静かに閉じた(4:15pm)。唯一生存していた末弟レジナルドへ死の5日前にも便りを書いて兄弟愛の深さを見せている。

彼の自叙伝として、そしてその三分の二が幼少期から成人までの思い出に費やされている“*My Road to Rotary*”はポールの死後1948年に出版された。

ポールの墓はシカゴ郊外マウントホープ墓所にあり、盟友シルベスター・シールの隣にロータリーマークが美しく刻まれて並んでいる。

ボニーと呼ばれ、ポールのみならずすべてのロータリアンに敬愛されたカムリバンクの女主人ジーンは、その後ロータリー創立50周年記念大会(1955年)でロータリー創立者ポール・ハリス夫人として丁重に紹介されたのを機会に、故郷エジンバラに帰国した。弟、妹と共に余生を過ごし、1963年、82歳で死去して遺産38,900ドルをロータリー財団へ寄付した。

現在ロータリーでは、1947年のポールの死による巨額のポール・ハリス追悼募金で本格的スタートし、さらに巨大化したロータリー財団が、RIと一元化してポリオ撲滅を最優先として世界的な人道的奉仕活動に重点を置いたかのような推進を強化している。その努力と成果は大きく評価するところであるが、変革を叫ぶあまりに他方でその基盤たるべき“サービスの理念”の真意を理解した職業奉仕の正しい認識と強調が希薄になっているように見える。人間形成の場としてのロータリー、そしてそこで培われたサービスの心の実践、この双方が偏することなく進行することを結論づけた決議23-34採択の際の真剣な議論を今こそ想起、再現すべき時でしょう。ポール・ハリスの言葉の一部だけを都合よく強調して急速な改革ばかりを語る愚かさは、大いに批判的に検討、対応を考えることが新時代のロータリー発展の鍵だと思う。

ロータリーはポール・ハリスの心から！

<主要参考資料>

- ・ “*The Founder of Rotary*” ポール・ハリス著(1928年)
「ロータリーの創設者」 米山 梅吉訳
- ・ “*This Rotarian Age*” ポール・ハリス著(1935年)
「ロータリーの理想と友愛」 米山 梅吉訳
- ・ “*My Road to Rotary*” ポール・ハリス著(1948年)
「ロータリーへの私の道」 柴田 実訳
- ・ “*Golden Strand*” オーレン・アーノルド著(1966年)

- 「Golden Strand 黄金の絆」 田中 毅訳
- “The First Rotarian” ジェームス・P・ウォルシュ著（1979年）
「ポール・ハリス 偉大なる奉仕の先覚者」 是恒 正訳

その他多数